

お役に立てるお薦めの

4冊



健康格差社会 第2版 何が心と健康を蝕むのか

近藤克則 著

日本にもある健康格差を放置すべきでないと、社会疫学を基盤に早期警告を発した初版から17年。新たに蓄積された科学的な知見や動向を追加し、社会的決定要因による健康格差生成のプロセスがどこまで実証されてきたのか、その到達点を描く。経済格差が広がる中、健康格差の理解に最適な書。
定価：2860円(本体2600円＋税10%)／医学書院



看護ケアの質評価と改善

日本看護質評価改善機構 編集

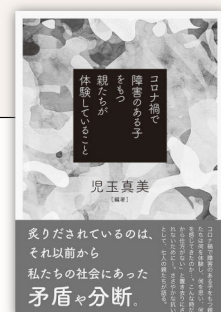
優れた看護ケアとは？ 看護ケアの質とは何か？ 日本看護質評価改善機構は、看護ケアの質を測定し、そのデータをどう評価し、改善につなげるかをテーマに探求を続けている。本書では、質評価の仕組みを詳細に解説し、巻末の本機構の「評価項目一覧」を、施設の質改善に活用することを提案する。
定価：3300円(本体3000円＋税10%)／医学書院



おしゃべリアリスの物語 難病の子どもの家族と医療者が倫理的課題に向き合う

萩原綾子, 小阪 仁, シニア純枝 編著

どんな選択を、子どもは望んでいるのか。医療的な最善と生き方の最善はイコールとは限らないとして、両親は、気管切開をしない退院を決断する。小児医療現場における倫理的課題にどう向き合い対応するか、脊髄性筋萎縮症(SMA)のアリスに起こった出来事を、立場の異なる当事者の視点で丁寧に振り返った1冊。
定価：2420円(本体2200円＋税10%)／へるす出版



コロナ禍で障害のある子をもつ 親たちが体験していること

児玉真美 編著

緊急時のケアは家族に丸投げ？ コロナ禍で障害のある子をもつ親たちは、不自由な生活の中で多大な負担を抱え、心身のストレスに押しつぶされそうになりながら、万一の不安に脅かされてきた。障害のある人も家族も、見えない存在として社会から置き去りにされないために、7人の親たちが自らの体験を語った。
定価：1980円(本体1800円＋税10%)／生活書院